

事業実績（視察）報告

1. 視察の概要

- (1) 目的 「赤ちゃんの駅事業」について
- (2) 日時 平成30年5月2日（水）
13：30～15：00
- (3) 場所 豊川市役所
- (4) 参加者 大塚久美子



（豊川市役所）

2. 主な質疑とその回答

Q 事業の概要は。

A 平成26年一般質問にて提案があり、市長が前向きに検討すると答弁し実施に向けて取り組んだ。当初「赤ちゃんの駅」の意味すら分からない状態であった。近隣市では、豊橋市・蒲郡市・田原市が取り組んでいた。同じではなく新しい取り組みとして、移動式赤ちゃんの駅も合わせて導入することにした。

実施は平成27年10月。

赤ちゃんの駅とは

乳幼児連れで外出する保護者が気軽に立ち寄り、おむつ替えや授乳を行うことができる場所。

豊川市「赤ちゃんの駅」には、目印としてステッカーやポスターを掲示し、気軽に立ち寄れるようにする。



Q 事業の費用は。

A 平成27年事業開始年度	テント2基	200,000円	
	おむつ交換台	90,000円	
	ポスター・ステッカー	100,000円	など
	合計	571,000円	

平成28年度 ポスター・ステッカーの補充 142,000円
(理由:色があせた。施設が増えた。)

平成29年度 テプラ購入 7,000円

・テントを2基購入したことで、貸し出し中で困ることはない。

Q 利用できる施設は。

A 公共施設85カ所
民間施設67カ所
(2018年2月現在)

Q 施設の周知方法は。

A ・平成27年9月記者発表・広報
・4か月健診時、ブックスタートでチラシを混ぜて周知
そのほか QRコードを使って赤ちゃんの駅をマップ検索できるようにした

Q 赤ちゃんの駅事業に関するアンケート結果はどのようなか。

A 赤ちゃんの駅登録施設向けのアンケートと4か月児健診の保護者向けアンケートの集計結果から、赤ちゃんの駅の利用はあったものの、利用者数はまだ少ないということが確認できる。保護者の認知度は32%(平成28年3月)から51%(平成29年9月)へ上昇した。

広報やチラシよりも外出先で目にするポスターやステッカーが赤ちゃんの駅の認知に繋がっていることが確認できた。



(視察の様子)

3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

平成26年12月定例会一般質問、平成29年3月定例会一般質問の二度に渡り「赤ちゃんの駅」事業導入について質問した。スポーツ施設や図書館においては授乳、おむつ替えスペースの確保や場所の提供などが進んだ。平成29年3月定例会では、保育士が描いたイラストを利用してパウチを作成するとの答弁があった。公共施設に利用できるか聞き取りを実行し、一覧表をホームページに掲載するところまで確認ができたが、やはり予算のついた事業でないことがスピードを緩めているのか周知も図られずにいる西尾市に対して、業を煮やし、三度目の一般質問を行うため先進地である豊川市の状況を視察した。

本市は、移動式赤ちゃんの駅のテントも寄付団体の協力のもと、設置することができ各イベントで使用されている。借りたいという団体も現れているため、使用基準等明確にして貸し出し事業として展開することを望むものである。

また、調査した通り事業予算としては、当初のポスターとステッカーの購入が主であるため、事業費は少なく、平成29年度は7,000円の事業費であった。事業を実施しない理由がない。

新市長は子育て支援に積極的であることから、乳幼児連れの保護者の方に赤ちゃんの駅を必要な時に気軽に利用してもらい、安心して外出できる環境をつくることが「子育てしやすいまち西尾市」のアピールに繋がると考える。また、民間施設にご協力いただくことで、地域ぐるみで子育てを支援している姿勢を表明していけるのではないだろうか。

今後の西尾市の取り組みに大いに期待し質問していきたい。

収支報告

項目	支出金額	備考
調査研究費	4,620円	旅費 3,220円(1人) 手土産代 1,400円
計	4,620円	